




令和 5 年度 施策評価表

施策	0305	ミライ o n の充実	施策担当部	教育委員会	部長	川下 隆治
			施策担当課	図書館	課長	堀江 史佳
施策の方針	生涯学習施設としての図書館、歴史資料館の機能を充実させるとともに、市民の知識や知恵を育み、学びや暮らしを支える「知の拠点」、様々な市民がふれあう「出逢いの広場」となるような運営に取り組む。					
関連するSDGsのゴール	  					

【DO（実施）】

後期基本計画（令和3年度～令和7年度）における数値目標

指標名	単位	基準値 (R1)	R3目標値	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R4年度	
			R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	達成率	進捗率
① 市民一人当たりの貸出冊数	冊/年	6.1	6.5 7.5	7.0 6.9	8.0	9.0	9.0	97.9%	76.1%
② 来館者数	人/年	264,211	600,000 374,294	600,000 365,798	600,000	600,000	600,000	61.0%	61.0%
③ 多目的ホール等の利用人数	人/年	1,442	6,000 3,728	7,000 6,489	8,000	9,000	10,000	92.7%	64.9%
④ 大村市歴史資料館の入館者数	人/年	30,305	50,000 29,157	35,000 27,771	40,000	45,000	50,000	79.3%	55.5%
⑤									

施策達成状況の説明

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が収束しない中、カウンター・机などの定期消毒、空調設備の適切な運転による換気の徹底など、引き続き様々な新型コロナウイルス感染症拡大防止策を継続し、市民が安心して来館できる施設運営を実施した。

令和4年5月4日には開館からの来館者数100万人を達成し、多目的ホール等の利用人数は6,489人、前年度比2,960人増となり多くの市民にご利用いただいたが、来館者数は約36万6千人（開館日数283日）、年間貸出冊数は約78万冊となり、1日当たりの平均来館者数は1,293人（前年度比20人の減）、市民一人当たりの年間貸出冊数は6.85冊（前年度比0.62ポイント減）など前年度より減少した。

歴史資料館では、令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響もあって、入館者が昨年度よりも減少した。しかしながら、長崎県美術館との共催による移動美術館や、大村高校家政科との「おおむらかるた」実演大会などの連携事業を実施し、大村の歴史や文化の情報発信を行うことができた。

施策経費

(単位:千円)		R4年度 決算	R5年度 予算	R6年度 見込	特記事項
内訳	事業費	227,843	256,567	281,627	
	国庫支出金	4,750	0	0	
	県支出金	0	0	0	
	地方債	0	0	0	
	その他	84,605	102,540	95,975	
	一般財源	138,488	154,027	185,652	
	人件費	97,077	97,033	—	
フルコスト	324,920	353,600	—		

施策の概要（細施策）

030501	「知の拠点」としての運営	市民の知識や知恵を育み、学びや暮らしを支える「知の拠点」として、充実した図書資料、高度なレファレンス（課題解決支援サービス）を提供する図書館、郷土の歴史に触れ、貴重な歴史遺産を後世に伝える歴史資料館を運営します。
030502	「出逢いの広場」としての運営	県内外から多くの方が来館し、様々な人々がふれあう「出逢いの広場」として、歴史資料館での企画展示や特別展示、多目的ホールなどミライ o n の空間を利用した多種多様なイベント・講座等を開催します。
030503	読書活動の推進	読み聞かせのイベント、「としょかん出前講座」、様々なテーマでの図書資料展示などを実施し、図書や読書との新しい出逢いを創出することで、人々の読書活動を推進します。
【再掲】 030104	歴史資料館の充実	郷土の歴史に触れ、貴重な歴史遺産を後世に伝える施設として、歴史資料館における保存、展示、教育普及などの活動の充実を図ります。

【CHECK（評価）施策担当部長】

施策を達成する上での問題点・課題

図書館では、図書館としての機能（様々な図書資料及び電子書籍コンテンツの整備、高度なレファレンスサービス、読み聞かせや図書展示などのイベント）をさらに充実させ、市民の読書活動を推進しなければならない。
 加えて、歴史資料館や中心市街地の商店街等と連携をはかり、ミライオン[®]の設備や空間を活用した魅力あるイベント、展示、講演会等を開催し、広く県内外からの来館者が訪れる「ミライオン」となることも求められている。
 また、来館者が安心して訪れることができる快適で安全な施設環境を提供しなければならない。
 歴史資料館では、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、より多くの入館者を獲得するため、魅力ある展示会と情報発信が必要となる。

【ACTION（改善・改革）】

上記の問題点・課題を踏まえた事務事業の改善・改革や新規事業についての考え方

図書館では、図書資料及び電子書籍コンテンツを整備・充実させるとともに、魅力あるイベント、展示、講演会、定例の読み聞かせ等を企画・開催する。また、高度なレファレンスサービスを提供するために、引き続き、司書職員の図書館勤務年数や年齢に応じた専門研修の受講を計画的に実施する。
 新たに営業を開始したカフェスペースを含め、来館者が安心して訪れることができ、快適に過ごすことができる施設環境の提供を継続する。
 歴史資料館では、年4回の企画展及び特別展の開催を継続しつつ、図書館と連携した講演会やイベント等を開催することで来場者の呼び込みを図る。

令和6年度新規事業

	事業名	担当課	令和6年度見込	対象・事業概要など
			事業費（千円）	
1				
2				
3				
4				
5				
			0	